

平成25年

10月18日【金】

午後6時30分開演(午後6時開場)

※午後6時15分から開演前ショート解説があります

- ◆能 ^{こいのおもに}「恋重荷」(観世流)
シテ 久田 勘鷗
- ◆狂言 ^{わかめ}「若和布」(和泉流)
シテ 佐藤 融

名古屋能楽堂
十月定例公演

◆開演前ショート解説「恋重荷」について 梅田嘉宏



撮影：杉浦賢次

ご来場の方に抽選で素敵なプレゼント!

本公演にご来場の方の中から抽選で10名様に能楽グッズをプレゼントします。

※ ご入場の際にお配りするパンフレットに応募券が入っておりますのでご確認ください。
(ご応募の締切は休憩終了まで)

【世阿弥 生誕650年 — 今、世阿弥を観る —】

世阿弥作の能<恋重荷>は、『三道』に「恋の重荷、昔、綾の大鼓也。」と、現在の<綾鼓>の原型「綾の大鼓」との関係が語られている。<綾鼓>の原曲を翻案したのが<恋重荷>だということになる。「綾の大鼓」は現在伝えられていないものの、その曲名からして、鳴らぬ鼓を打たせるという<綾鼓>と趣向を同じくするものであったと考えられている。

<綾鼓>と<恋重荷>—いずれも老人の身分ちがいの恋、とうてい叶わぬ恋を描いているが、世阿弥は改作にあたって、老人に課す難題を「鳴らぬ綾の鼓」から「持てぬ恋の重荷」へと変えた。「恋の重荷」は叶わぬ恋の苦しみの重さであり、恋を重荷にたとえる和歌表現の具体化でもあったと言われている。

人恋ふる事を重荷と担ひもて逢ふ期なきこそわびしかりけれ(『古今和歌集』)